

# 22

## 阿蘇産牧草・野草を活用した肉用牛用発酵 TMR の開発及び給与試験

- 実施主体 熊本県農業研究センター 草地畜産研究所
- 実施場所 熊本県農業研究センター 草地畜産研究所
- 実施期間 平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日



### <背景・ねらい>

我が国の畜産経営は、飼料の大部分を輸入に依存しており、近年の飼料自給率は 27%前後と低迷している。

そこで、昨年度までに阿蘇地域の草資源の有効活用と飼料自給率の向上、飼料費削減のため、阿蘇産寒地型牧草を活用した肉用牛用発酵 TMR を開発し、褐毛和種へ給与試験を行った。給与試験の結果、嗜好性や発育等は良好で、飼料自給率は向上し飼料費の削減も可能となった。

今後は、阿蘇の草地の大部分は野草地であることから、阿蘇地域の豊富な草資源の更なる有効活用と飼料自給率の向上、飼料費削減を目的として、阿蘇産野草を活用した発酵 TMR の開発、給与試験を行う。

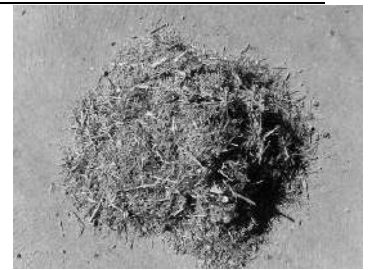
### ■実施概要

#### ①阿蘇産野草を活用した肉用牛用発酵 TMR の開発

- ・肉用牛肥育用として、肥育前期、中期、後期それぞれの阿蘇産野草を活用した発酵 TMR を開発
- ・野草の配合割合 前期：23%、中期：18%、後期：13%

#### ②褐毛和種への①の給与試験

- ・令和元年 10 月から開始し、令和 3 年 1 月に出荷予定。
- ・肥育全期間を通して阿蘇産野草発酵 TMR を給与



野草発酵 TMR  
(肥育中期用)

### ■実施体制

- ・TMR 飼料設計・製造において、熊本県農業研究センター畜産研究所をはじめ各関係機関と協力
- ・当所は、阿蘇産牧草、阿蘇産野草を活用した発酵 TMR の開発とを褐毛和種への給与試験を担当している。



拡大写真  
(ネザサが見える)

### ■成 果

- ・阿蘇産野草を 13～23%配合し、CP不足を補うため大豆粕を 2～3%配合した肥育前期、中期、後期用のそれぞれの発酵 TMR を開発した。
- ・給与試験は現在実施中である。

### ■実施者の感想

- ・野草発酵 TMR 給与試験による生産牛肉への影響を調査し、そのメカニズムの解明を進めるとともに、阿蘇地域草資源の更なる有効活用に努めたい。
- ・肥育前期用の給与試験では、残飼が多くみられたため野草の種類、刈取時期を考慮する必要があると思われるが、増体は良かったため、野草を発酵 TMR として利用することは十分可能であると考えられる。



採食の様子